

<p style="text-align: center;"><b>今年度の指導の重点</b></p> <p>1 確かな学力をつける—指導技術を高め授業改善を行いながら、わかる授業・楽しい授業づくりを進める。また、朝学習や補充学習、家庭学習に一体的に取り組み、学習習慣の定着を図る。</p> <p>2 心を育てる—「どの先生も、どの子に対しても、同じ指導をする」ことを徹底し、児童の主体的な取組を大切にしながら自己肯定感を育て、子ども同士の望ましい人間関係を構築する。</p> <p>3 特別支援教育を充実させる—一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導と必要な支援を行う。また、医療機関や支援関係との連携を図る。</p> <p>4 連携を深める—地域人材を活用した地域学習や郷土学習に取り組み、ふるさと教育を推進する。また、PTA活動を充実させ、学校の教育課題や子育てについて学び合う。児童の交流や情報交換等を通じて、滑らかな保幼小の連携を進める。また、相互の授業公開や教職員の合同研修、親睦をはかりながら小中の緩やかな連携を図る。</p>	<p style="text-align: center;"><b>津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組</b></p> <p><input type="checkbox"/>学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【 B 】 年度末【   】</p> <p><input type="checkbox"/>授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【 B 】 年度末【   】</p> <p><input type="checkbox"/>言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【 C 】 年度末【   】</p> <p><input type="checkbox"/>学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【 B 】 年度末【   】</p> <p><input type="checkbox"/>授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している 当初【 B 】 年度末【   】</p> <p><input type="checkbox"/>家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【 B 】 年度末【   】</p>
---	--

※達成度 「S:目標を多きく上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」|「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」|「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」|「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p><b>【学力状況調査の結果】</b></p> <p>全国</p> <p>○算数A・Bともに、県平均と比べるとかなり高い。</p> <p>○算数A・Bとも全領域ともかなり高く、特に「図形」「数量関係」の正答率が高く、記述式の解答も良くできていた。</p> <p>A 180°の角の大きさの理解:本校100%(県94.5%)、直径の長さや円周の関係:本校76.5%(県49.2%)</p> <p>B 条件を変えて考察した数量関係の記述:本校82.4%(県59.1%)</p> <p>課題としては、A 単位当たりの大きさを求める:本校35.3%(県49.0%)</p> <p>○国語A・Bともに、県平均をやや下回るが、「書くこと」「読むこと」の領域はかなり高い。記述式の解答も県平均を上回っている。</p> <p>B 文章全体の構成や効果を考える:本校76.5%(県56.2%)、自分の考えを明確にしなが読む(記述):本校64.7%(県51.9%)</p> <p>課題としては、A 事例を挙げながら筋道を立てて話す:本校70.6%(県90.6%)</p> <p>○理科は、全体としては県平均を下回っている。「物質」の領域は平均と同程度であるが、「生命」の領域の課題が大きい。</p> <p>県</p> <p>○算数では、どの学年も「数と計算」領域は、県平均と同程度もしくは高く、基礎的な計算の力はついていけるといえる。しかし、他の領域では、学年によって差が大きく、3年生は「数と計算」領域はかなり高いが「量と測定」領域に課題があり、4年生は「量と測定」領域は高いが「図形」領域に課題がある。5年生は「数と計算」「量と測定」領域は県平均と同程度だが「図形」「数量関係」領域に課題がある。またどの学年も、記述式の解答に課題がある。</p> <p>○国語では、どの学年も、県平均と同程度もしくは低い。</p> <p>○4・5年生の漢字の読み書き、物語文を読む問題の正答率はかなり高いので、「言語事項」領域の正答率は同程度もしくは高いといえるが、「話す・聞く」「書く」領域の正答率は、どの学年もかなり低い。どの学年も「作文」の問題に課題が大きい。</p>	<p><b>【学習状況調査の結果】</b></p> <p>○いじめはどんな理由があってもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」「朝食を毎日食べている」「家で学校の宿題をする」「地域の行事に参加する」の項目は、“どちらかといえば”も含めると100%である。</p> <p>○地域のことを調べたり地域の人と関わったりする機会があった」「地域のボランティア活動へ参加した」「地域の大人との関わりがあった」の項目のポイントはかなり高く、地域とのつながりが深い。</p> <p>○テレビ等の視聴時間はかなり長く、2時間以上が50%を超えており、4時間以上も23%ある。</p> <p>○テレビゲームは全くないという割合は高いが、全体的には、1時間以上している割合が県平均より高い。</p> <p>○スマートフォンの使用も、県平均よりかなり高い。</p> <p>○ほとんどの児童が、30分から1時間程度の家庭学習をしているが、平均時間にすると県平均より短い。</p> <p>○読書時間はかなり短く、「全くない」という児童が65%もいる。</p> <p>○地域でも学校でもしっかりとあいさつができていく児童が約半数いるが、あまりできていない児童もかなりいる。</p>

成果	課題
<p>○漢字と算数の前々学年からの確認プリントの取り組み方を工夫し、学期を通して繰り返し行ってきたことで、漢字や計算などの基礎基本の力はついてきている。</p> <p>○放課後の補充学習でも、課題を確認しながら、基礎的な内容を徹底するとともに、活用問題にも取り組むことができた学年もあった。</p> <p>○授業改善に努め、「めあて」「まとめ」「ふりかえり」の意識をすることで、6年生などは自分の考えをしっかりと表現する力がついてきており、継続的に指導することの重要性が改めて確認できた。</p>	<p>○基礎基本の力はだいぶついてきているが、個人・学年での差が大きい。(徹底とレベルアップ)</p> <p>○活用型の問題や記述式の問題を苦手としている。</p> <p>○主体的に学ぶ授業づくりを進めてきているが、まだまだ不十分であり、自分の考えを保持したり表現したりする力が弱い。(話し合い活動・学び合い・予習復習)</p> <p>「条件を整えて記述する」「複数の条件を整える」「自分の考えを書く」「条件に合わせて説明する」ことをポイントに</p> <p>○望ましい生活習慣や学習習慣の定着(宿題・自主学習の質を高めていく)を図るために、保護者の意識を高めていく必要がある。</p>

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
主体的に学ぶ意識づくり 基礎基本の徹底と 活用問題の取組	各学期末	基礎基本は80% 活用問題は取組を進める	「7つのやくそく」の徹底 毎月の振り返りカード これまでの確認プリントの取組 活用問題の取組					
自分の考えを持ち、表現する力 をつける (話す力・書く力をつける)	各学期末	意識的取組 90% 書くことに慣れさせる	授業改善 場の設定—自分の考えを持ち伝え合うことや書くこと (まとめや振り返り、キーワード、条件をつける) 表現のスキル、文法事項の指導 日記や作文などいろいろな文を書く					
家庭学習の定着と充実 自主学習の質を高める	各学期末	自主学習取組100% 家庭と連携しながら意識を高める	自主学習の習慣化(自学の紹介、見本) 内容の工夫 家庭と連携しながらメディアコントロールの呼びかけ					

※達成度 「S:目標を多きく上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」|「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」|「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」|「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
<p>○県・全国学力学習状況調査の分析を基に教科学力の向上を目指した授業改善の取組</p> <p>○家庭学習の手引きの共有化</p> <p>○「ノーマディアにチャレンジ」週間を設け、家庭での過ごし方を家族で見直す機会を作る。(勝北中ブロックで同期間に取り組み)</p> <p>○①靴揃え②チャイム着席(教職員も、チャイムに始まり、チャイムに終わらせる)</p>	<p>○家庭学習の手引きをもとに、家庭学習・自主学習の習慣化を呼びかける。</p> <p>○ノーマディア週間の取組などを通して、生活習慣改善の協力を得る。</p>